



ぼうざぶろう

増田望三郎の市議活動だより

巻頭言 今こそ変える時！ 不合理な議会運営

【議員の不平等な扱いは、有権者をも不平等に扱うということ】

今定例会には陳情「議員平等の原則に基づく、安曇野市議会の運営と議会内人事の平等を求める陳情書」（提出者：議会と共にある市民の会／塚田豊久さん代表）が提出されました。これまでも私は議会運営における議員不平等さについて発信してきました。具体的には、
①会派に属さない無所属議員は議会改革委員会、広報委員会、組合議会に参加できない。
②議会運営委員会は無所属議員が3人以上何人居ても1人しか割り当てが無いなどです。
選挙で市民に等しく選ばれた議員が、委員会での仕事をさせてもらえないという不平等な扱いを受けているわけです。

陳情者は議員間で約6倍の仕事量の格差があることを示し、また「**自分たちが選んだ議員を通じて市政参加しようとしているのに、その議員が不平等な扱いを受けているのは、有権者である自分たちが不平等の扱いを受けていることと等しい**」、「**代表を議会に送り出して市政参加する間接民主制そのものをないがしろにするものだ**」と主張されました。本来は議会自らがこういった不合理さを改善しなければならないことですが、その改善が見込

めないため、今回市民が立ち上がってくれたわけです。この陳情への市民の賛同人は150人を超えました。

【陳情は継続審査に】

陳情審議は議会運営委員会で行われ、1時間足らずの議論で結果は継続審査となり、次回定例会に持ち越されました。論点ずれの議論も多く、本質的な話し合いがなされないまま、現状認識を確認し合っただけの審議に、約30名の傍聴者からは残念なため息とブーイングが起こりました。



【市民と議会の意見交換会が開催】

このような陳情審査では不十分と思われたのか、議会と共にある市民の会のみなさんは市議会に対し、議会基本条例第6条を根拠に議会との意見交換会の開催を要望されました。10月3日に開催された意見交換会では、市民と議員とが交互に車座になって座り、焦点

みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政や議会が市民にとって身近になるために、虹（＝Rainbow レインボウ）の架け橋となるような議員活動をしていきます。望三郎の活動はブログやフェイスブック、インスタでもどうぞ。

を絞った2時間の議論を経て、議員間の格差及び不平等の認識、そしてそれを是正しなければならないという議会内のコンセンサスはできたように思います。18年間動かなかった重たい石を、市民のみなさんがここまで持ち上げて、あと一押しで転がるところまで来ました。あとはそれを議会が変え切るところをやるだけです。

【意見交換会の市民の感想・50代女性】

昨日の意見交換会は白熱してとても有意義な時間でした。私のようにどんな議員がどのような考えをしているかを知らなくても、その議員さんのお人柄や考えが浮き彫りになるような会でした。市民が見ている場で、議員さんお一人、お一人の意見、考えを発言してもらえる場。そしてその意見を全議員、市民が聞くことのできる場。そんな意見交換の場がもっともっと必要だと感じました。このような場をもっと持てるようになれば、どんどん議会が変わっていくのではと感じました。

【望三郎のコメント】

市民と議会の意見交換会は何年ぶりでしょうか。少なくとも私自身は議員になって10年、初めての機会でした。今後どんなテーマや課題であろうと、市民から要望のある意見交換会を議会としてしっかりと受け止め開催していきたいと思います。また市民にとっても議会を身近に感じられる機会にもなります。市民と議会の新しく、そしてあるべき関係性の構築に向けて、大きな試金石にもなった意見交換会でした。

●プロフィール

大分県出身 54 歳。東京経由で安曇野に移住し 20 年目に。三郷小倉に妻と子ども、妻の両親の3世代で暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿（ちきゅうやど）』を経営。安曇野市議3期目。好きな言葉は『出会い、共感、展開』



サポーターからの応援メッセージ ③7



大野田哲朗さん

（穂高／月日堂製パン）

「議員平等の原則に基づく安曇野市議会の運営と議会内人事の平等を求める陳情書」を受けて、10/3の夜、全議員が集まっての「市民との意見交換会」を傍聴しに行きました。自分が住む市議会のことをあまりにも知らなかったということに気づき恥ずかしくなる一面、目の前で繰り広げられる意見からは、自分が投票した議員（他にも投票しなかった議員含め）が、市民の声を市政に反映していくためのスタートラインにも立てていないという現実を目の当たりにしました。

意見交換会中、何度も耳にした「会派」と「先例」という言葉。「会派」に囚われて過ぎている議員は、高校生でもわかる簡単なことがわからない。現在全国的に注目されている、広島県安芸高田市の最大会派の名物議員とも重なって見えてしまいます。それでもよかった点は、出席されていた議員のみなさんの問題意識の大小はあれ、現状を変えていく必要に迫られているという空気感を感じることができたこと。そう、あとはスピード感。諦めず、しっかり相手の目を見て対話を大切にする望さんなら、この現状を変えていけるはず。応援しています。

9月定例会の一般質問

テーマ「10代から20代の将来世代と安曇野市をユタカにつなぐ」

【解説】

10代～20代の将来世代は子供から大人へと自立成長する大切な時期。この時期にユタかな社会体験をすること、社会観、仕事観、人生観に影響を受けるユタかな大人たちに出会うことは、大人になることに夢や希望を持つことにつながります。そういった将来世代に対して市からアプローチをすること、また将来世代と安曇野市とがユタカにつながるための提案をしました。

望市議 市長は将来世代について、どのような認識を持っているか。

市長 多様な価値観や考え方を受け止めることができる共生社会の実現を目指している。若者の多様な価値観や考え方を大人、社会が認めて、受け止める社会を築いていく。

望市議 将来世代への広聴をどうするか。自分たちの将来や安曇野市の10年後、20年後を話し合う若者の会議を始めてはどうか。

市長 若い世代から市の将来への意見を伺うことは大変意義がある。懇談会、ネットなど方法を検討する。飛耳長目（※市長が実施しているテーマ別に市民と話す機会）でも、いつでも受ける。

望市議 将来世代と安曇野市をユタカにつなぐ機会が必要。地元中高生に向けて農家民宿の利用を呼びかけてみてはどうか。農家民宿を通じて安曇野のユタカさの実感や、安曇野に住む大人たちとの交流を安曇野の子供たちにこそ味わってもらいたい。ふるさと安曇野の良さを改めて知る機会にもなるが。

部長 新たな形として、地元、県外、友達同士、家族などの受入れを行っていくのか農家民宿連絡協議会検討していく。

望市議 安曇野の大人たちの仕事観を学ぶ、市内中学校でのキャリアフェスの取組は。

教育長 生徒たちが、自分たちの職業観、働くことについて真剣に考え始めている姿が感想の作文から感じられた。

望市議 安曇野でギャップイヤー（以下GY）を設ける若者たちが訪れて、自分の仕事観、人生観、社会観を見つめ、学ぶインターンシップを行えないか。将来世代をユタカに育てる土壌が安曇野にはあるが。

※ギャップイヤー（gap year）とは
学生が大学への入学前、在学中、卒業後に就職するまでなどの時期に、留学やインターンシップ、ボランティアなどの社会体験活動を行うため、大学が猶予期間を与える制度あるいは自主的な取り組み

市長 GYの概念がまだ日本では確立していないが、農業、製造業、観光など様々な職業、田園地域での生活も経験でき、ポシビリティがある。GYがどのように社会に根づいていくかということとの兼ね合いだ。

望三郎のもう一言

若者がアクティブに地域参画し、声を出す
ちは将来に向けて発展していく可能性があります。
一方、若者の声が聞こえてこない
ちは将来どうなるのでしょうか？この安曇野が
地元の若者にとっても、市外県外の若者にとっ
ても、ユタカに育つ場所にしていきたいと思
います。



安曇野社会見学～市内外の中高生が市内の職場を訪ね、大人たちの仕事観・人生観を聞いた

9月定例会トピック

最終日の議決では、私は行政DX（デジタルトランスフォーメーション）を進める立場から、マイナンバー制度関連の補正予算や決算認定には賛成しました。一方で保険証を廃止し、マイナンバーカードに一本化する国の方針は強引であり賛同できません。また保険証との紐づけによる現状の不具合を鑑みるに、保険証の廃止は性急すぎるので、保険証の存続を求める市民の2つの陳情には賛成しました。

北小倉ゴミ問題の新展開

これまでも再三取り上げてきた三郷小倉にある民間事業者のゴミ処理施設問題。この度、住民が市を訴えていた行政裁判が終結しました。最高裁での住民敗訴が確定したこと、また裁判を続けるだけの新たな争点が無いことを理由に、原告住民側が請求放棄をし、それにより終結となりました。これにより、原告と被告という住民と市の対立関係は終わりました。今後も住民による事業者への監視は続き、さらに行政との対話を重ね、事業者への行政関与を求めています。本問題は新たなステージに入りました。

みんなでカフェトーク

カフェでおしゃべりするようなカジュアルな雰囲気、議員の私たちと話しませんか。私も背広とネクタイを外し、市民のみなさんとざっくばらんにお話したいです。お子さん連れでどうぞ。

参加予定議員：小林純子、林孝彦、橋本裕二、増井裕壽、増田望三郎

日時：10月28日（土）p m 2時～4時

場所：穂高研成ホール

望三郎市議が行く!! 第38話 『長野県の自然保育議員連盟』 出演：望さんにじと、ピース

春の統一地方選も終わり
新たな議員も加わって
自然保育の推進議連を
リスタートさせましょう！

望市議 寺沢県議

幼児期の子どもたちの豊かな育ちの場として
自然保育を推進しよう！
という議員 有志の集まりがあるんだよ
自然保育推進議員連盟だね
県議や13市町村の議員が
27人もいるんだよ
どんなことやってるの？

自然保育の園を視察したり
保育士の処遇改善を
県や国に要望しているよ

今年度から新たに次のステージである
小学校でも一人ひとりが
最適な学びができるように
取り組んでいくよ

保育園 小学校

自然保育の
豊かな学びを
小学校にも
つなげていくんだね
豊かな体験や経験の上に
知識や知育を重ねていく
公立小学校に
していきたいね
体験★経験